

こんにちは 青木です



第18号

発行 青木みきお後援会
福井市市ノ瀬町21-18
☎0776(85)1466
発行責任者 青心会
会長 吉田 則夫
印刷 (有)いとう印刷

新年のご挨拶

青木 幹雄

新年明けましておめでとうございます。旧年中は皆様の温かい、ご指導、ご支援を賜わり心からお礼申し上げます。

昨年は国政において与野党逆転となり、今後の政治運営の基本が問われています。地方分権の必要性が求められていますが、人口減少社会の中で自治体の担う役割を明確にして福井市発展の為の施策を実行せねばならないと考えております。

棗地区の皆様、明けましておめでとうございます。皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃より「青木幹雄を育てる会」にご理解とご協力を頂き厚く御礼申し上げます。



毛利 清治

棗地区自治会連合会会長
棗地区青木幹雄を育てる会会長

ごあいさつ



吉田 則夫

青心会会長

ごあいさつ

新年明けましておめでとうございます。皆様にはご健勝にて新しい年をお迎えのことと心から喜び申し上げます。

昨年は一昨年九月の「リーマンショック」以来、経済が立ち直らない中で、「政権交代」が行われました。政治の世界では昨今「地方分権」が議論されており、福井市における画一的政策から脱却し、地域の特性を活かした政策に転換をする為にも、引き続き青木議員のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様方のご繁栄とご多幸を心からお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



都市計画マスタープランの構成

序章 都市計画マスタープランとは

第1章 現況と課題

(1) 状況の変化と現況 (2) 都市づくりの課題

第2章 都市づくりの目標

(1) 都市づくりの理念 ～次世代のために～
(2) 目指すべき都市の将来像

第3章 目標の推進方針

(1) 4つの視点ごとの推進方針
(2) 4つの視点から見た将来の姿

第4章 都市計画マスタープランの実現に向けて

(1) 市民と行政の協働による都市づくりの実現
(2) 都市計画マスタープランの評価・見直しの方針

第1章 分野別構想について 第2章 分野別の方針

- (1) 土地利用の方針
- (2) 交通体系整備の方針
- (3) 都市環境形成の方針
 - ①環境形成の方針
 - ②景観形成の方針
- (4) 公園・緑地の整備方針
- (5) 下水道の整備方針
- (6) 身近な生活空間づくりの方針
 - ①防災都市づくり
 - ②住み良い環境づくり
 - ③福祉・健康のまちづくり
- (7) 新たな交流・連携づくりの方針
 - ①にぎわい交流の拠点づくり
 - ②市街地と周辺農山漁村地域との交流づくり
 - ③歴史のみえるまちづくり
 - ④観光まちづくり

第1章 地域別構想について 第2章 地域別まちづくり方針

- (1) 市街地中心部地域
- (2) 市街地東部地域
- (3) 市街地北東部地域
- (4) 市街地北部地域
- (5) 市街地北西部地域
- (6) 市街地南西部地域
- (7) 市街地南部地域
- (8) 南東部地域
- (9) 北部地域
- (10) 北西部地域
- (11) 南西部地域
- (12) 西部地域
- (13) 東部地域

福井市都市計画マスタープラン(素案)がまとめられた。福井市の50年先を見据えた視点のもと、概ね20年後「平成42年」を目標年次としている。都市の将来像を全体の方針・土地利用等の分野別方針・地域づくりの地域別方針を定めた総合的な指針となっている。ネーミングは「暮らしの豊かさを実感できる『歩きたくなる』まちを目指して」となっている。構成は全体構想・分野別構想・地域別構想の3本立てとなっており、これまでの2度の地域説明会やパブリックコメント等を通して、取りまとめられている形となっている。

12月議会でも多くの議員がこのプランについての質問が行われたが、少子化・高齢化と、人々が少なくなる社会を考えると、このプランの果たす役割は大きいと言わざるを得ない。市民の皆さんの意見を更にいただきたいと思っております。

改訂

福井市都市計画マスタープラン(素案)

3年間かけた



ぐんぐんなる日本!ぐんぐんする地方!!

激的変化が求められる地方自治体

国 立社会保障・人口問題研究所の推計によると50年後の人口は50年前の人口になると予測されています。戦後10年の人口は9千万人弱。約45年後には現在の1億2千万7百万人から4千万人減つてゆくと言つたのです。その時の社会はどのような社会になつていくのか?

65 才以上の人口が23% ↓41%に生産年齢人口が64% ↓51%に、中学生以下人口が14% ↓8%に変化する予想されています。まさに世界中でこれまでに例のない、人口減少・少子化・高齢化の社会に向けて進んでいると言えます。また、これまで日本は

を時代変化の中で作って来ましたが、一貫して国土の均衡ある発展が計画の根底にあったと言えます。現在こうした計画が国にはありません。

一 方、福井県の人口は前回は鳥取県に次いで人口の少ない県でしたが、島根・高知・徳島の人口が減つて、現在は5番目の81万人強となっています。我が県が増えたのではなく、他県の減るスピードが速いと言えます。

一 極集中が加速している現実です。又東京では年越し〇〇村と言われる対応や、子供が保育園に入れないで待機しな

ければならない人数が増えていきます。自治体の財政力は総じて人口の増えるところは強く、減る所は弱い傾向がハッキリ見えます。国と地方の役割をどうするか?

地 方分権が唱われて14年の年月が流れました。10年前の地方分権一括法の施行により、そのあり方は大きく変わる体制となつていますが、国と地方の権限が具体的に見直されていません。

人 とお金を国と地方の関係を分担し、地方政府と言われる通り、実質的に主体となつた自治体運営が出来る様に変革しなければならぬと考えます。すべての人が笑顔で暮らせる社会の実現は、将来を見据えた政策にかかっていると言えます。

議会報告

会期 11/30
12/22

12月議会

平成21年12月議会にて、合計三億三千八百一十萬円の補正予算が承認された。

・生活保護扶助費	3億6200万円
・障害者自立支援事業	3億2000万円
・エイペック開催関連等	788万7千円
・子育て応援特別手当	▲2億8650万円
〈厚労省より執行停止〉	
・職員給与費の改定	▲8975万円
〈人事院勧告により〉	
等	



これから 市役所の あり方

一、行政サービスの再点検
二、効率的な行政の推進
三、多様な主体との連携となつていく。

内容は、一、について行政関与の必要性の検討・公平性の確保・有

福井市行政改革指針がこの度まとめられた。平成18年の福井市行政改革の新たな指針を現状に鑑み、更に見直しを行なう姿勢を示している。取り組み期間は22年からの5年間。推進項目は、

活動の活性化・行政関連団体の自立した活動の促進・市民への情報提供の拡充がある。



ブームアッパ A.O.K.I



学生発、地域の町づくりプラン事業に参加して

私たち自然王国なつめ委員会では、福井市の学生と地域の人々が共同で、町づくりをしていく、という事業を知りました。「地域外の若者の町づくりに対する意見や、考え方を聞きたい、地域にあるいろいろな問題を地域外の若者が見た当地区の印象や問題点、及びその活性化の方法について意見を聞きたい」と思い、仁愛大学の学生たちとともに「学生発、地域の町づくりプラン」事業に取り組んでいます。学生からは、今までに気が付かなかったようなアイデアや斬新な意見が聞け、色々参考になりました。まだ事業は途中でありますが、刺激を受けることも多く、次の会議が楽しみです。(青心会・湯口)

新春のつどい



去る一月十一日、日ごろお世話になつていらっしゃる支援者を東公民館に招き、「新春のつどい」が盛大に開催されました。約一〇〇人の支援者が

駆けつけて、会場は和やかな雰囲気の中、毛利連合会長、杉田公民館長の挨拶で始まり、青木議員からは「多くの方から意見を聞かせてもらったとともに、皆様から頂いた声を、議会の活性化に繋げていきたい」と抱負を熱く語っていました。又衆議院議員の稲田先生と県議会議員の松田先生との二人がお祝いに駆けつけて下さいました。特に稲田先生は国会前の慌しい中、当日は早朝からの来福で、民主党政権の運営に対する不安や疑問を語るとともに、福井の良さを全国にアピールしていきたいと抱負を述べられていました。次に坪田JA経営管理者の乾杯で会が始まり、青木議員はたくさんの方の支援者と笑顔

編集後記

◆今年も盛りだくさんの新春号でスタートします。楽しい紙面で頑張ります。

広報担当 月葉 総彦
南東 雅彦
福田 一博

